

令和6年度 学校自己評価表 廿日市市立四季が丘中学校

学校教育目標 「ともに学び自ら伸びる～自他尊重～」

	評価計画					
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値 昨年度	
確かな学力・体力の向上	生徒が主体的に学ぶ教育を推進し、自分の考えを表現できる力を育成する。 (主体性と表現力の育成)	【主体性と表現力の育成】 ①学び合いたいと思える発問や提示方法の工夫を行う。 ②表現力の向上を目指した授業づくりを進める。 小中一貫教育による「主体的な学び」の深化	①-ア ディスカッション、教え合い、プレゼンテーション等、協働的に学び合う学習スタイルの実践	・「話し合い活動に自ら進んで参加して自分の考えをもったり、伝えたりすることができる」と回答する生徒の割合(授業評価アンケート) ・「授業におけるICTの活用は内容の理解や考えの表現に役に立っている」と回答する生徒の割合(生徒アンケート) ・「四季中授業スタイル(「めあて」と「振り返り」、学習規律の徹底)」を實踐している」と回答する教師の割合(教職員アンケート)	90%	84%
			①-イ ICTを効果的に活用(教材提示、情報収集、思考を深める、伝え合う場面での積極的活用及び研究の推進) ①-ウ 「本時の目標」と「振り返り」による学びの充実 ②-ア 教科の特性を生かした表現の場の設定 ②-イ 主体的に学ぶことのできる環境づくり(四季中授業スタイルの實踐と授業規律の徹底、掲示物の精選、仲間と共に学ぶ場としての教室整備)		90%	95%
豊かな心	自他を認め合い、ともに高まる生徒を育成する。 (協働性と自己有用感の育成)	【協働性と自己有用感の育成】 ①自他を認め合い、ともに尊重し合うことのできる生徒を育成する。 ②集団の中での役割を意識させ、自己有用感を高める。 ③ふるさとへの愛着と誇りの心を育む。 小中一貫教育による協働性と自己有用感の醸成	①-ア 学校生活すべてを自分たちで動かす意識の育成(委員会活動、縦割り掃除等)	「友達や先輩後輩と協力するのは楽しい」と回答する生徒の割合(生徒アンケート) 自己有用感に関する項目に肯定的な回答をする生徒の割合(生徒アンケート) 「ふるさとに関心がある」と答える生徒の割合(生徒アンケート)	90%	91%
			②-ア リーダーを中心とした主体的な活動の実施(生徒指導規定の点検、生徒会行事の運営) ②-イ 校内いじめ防止対策委員会の機能化(学年担任制を生かした全教職員による組織的対応、SC、SSW、SSRの活用による不登校生徒への対応)		90%	88%
			③-ア 地域人材を活用し、未来創造的な学習を實踐(ふるさと・防災・生き方学習等における四季中サポート隊と生徒会の連携推進)		90%	-
信頼される学校	「働きがい改革」を進め、地域と連携・協働し、教育の質を高め、信頼される学校をつくる。	【生き生きと働ける職場づくり】 ①働きがい改革を推進する。 【信頼される学校づくり】 ①がんばる姿を発信する。 ②「不祥事0」の風土を醸成する。	①-ア 協働の職場風土の醸成 ①-イ 学年担任制による業務の平準化とOJTの推進	・「時間外勤務45時間超」にならない教職員の割合 ・「四季が丘中学校は働きやすい職場だ」と回答する教職員の割合	75%	66%
			①-ア 生徒や教職員のがんばる姿を、学校だよりや各種通信、HPに掲載 ②-ア 不祥事防止委員会の機能化と研修の充実		80%	69%
【小中共通】	「協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成」	【小・中共通テーマ】 協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成	・本質的な問いによる授業改善 ・合同授業研究、合同教育研究会の實施	・課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む児童生徒の割合(児童生徒アンケート) ・PC・タブレットなどのICT機器を使って友達と考えを交流する児童生徒の割合(児童生徒アンケート) ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合(児童生徒アンケート) ・「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」肯定的評価の児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	76%
					85%	-
					85%	-

評価基準表

	評価基準	目標値に対する達成度
目標値に対する達成度	A:十分に達成されている	100%以上
中間(最終)値 ÷目標値×100	B:概ね達成されている	80%以上100%未満
	C:やや不十分である	60%以上80%未満
	D:不十分である	60%未満

※複数の項目の平均値で評価する。